

題目 学生の価値観の違いを考慮した大学キャンパス周辺の生活環境の定量的分析

九州大学大学院 学生会員 立山翔也

1. 目的

キャンパス周辺の生活環境の整備はその地域の住民生活をより良くすると共に、研究者や学生を惹きつける大学の魅力の一つとして重要である。近年の学生生活は多様化しており、多様な価値観を考慮したまちづくりが重要である。

既存研究では、キャンパス自体の環境に着目した研究^①が多く存在し、加えてキャンパス周辺の土地利用や居住地満足度を分析している研究^{②,③}は存在する。しかし、キャンパス周辺での生活環境について、学生の個人属性を反映させた価値観に基づく生活質を定量的に分析している研究は少ない。

本研究では学生の価値観を考慮した生活環境の定量的分析を目的とする。

2. 内容

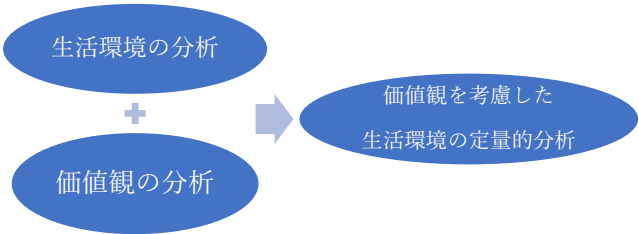


図 1 本研究の流れ

2.1 生活環境の分析

対象とする大学・学生数を図 2、立地を図 3、学生 1 人当たりの施設数を図 4 に示す。



図 2 大学及び学生数



出典：e-Stat, jSTAT MAP. Google map より作成

図 3 各大学キャンパスの位置

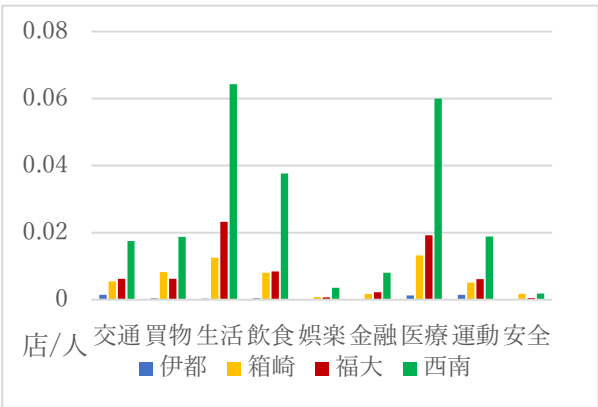


図 4 学生 1 人当たりの施設数 (3km圏)

学生 1 人当たりの施設数では圧倒的に西南学院大学が充実しており、箱崎と福岡大学では施設によって大小関係が異なる。伊都は全ての施設で他に比べ数が乏しいという結果が得られた。

2.2 価値観の分析

学生の価値観の分析をアンケートによる選択型コンジョイント法によって分析する。

表 1 アンケート概要

対象	学部生及び大学院生（206 人）
期間	2018/01/22～2018/01/23
方法	Web モニター
内容	学年・性別毎、キャンパス周辺の生活環境に対する意識調査

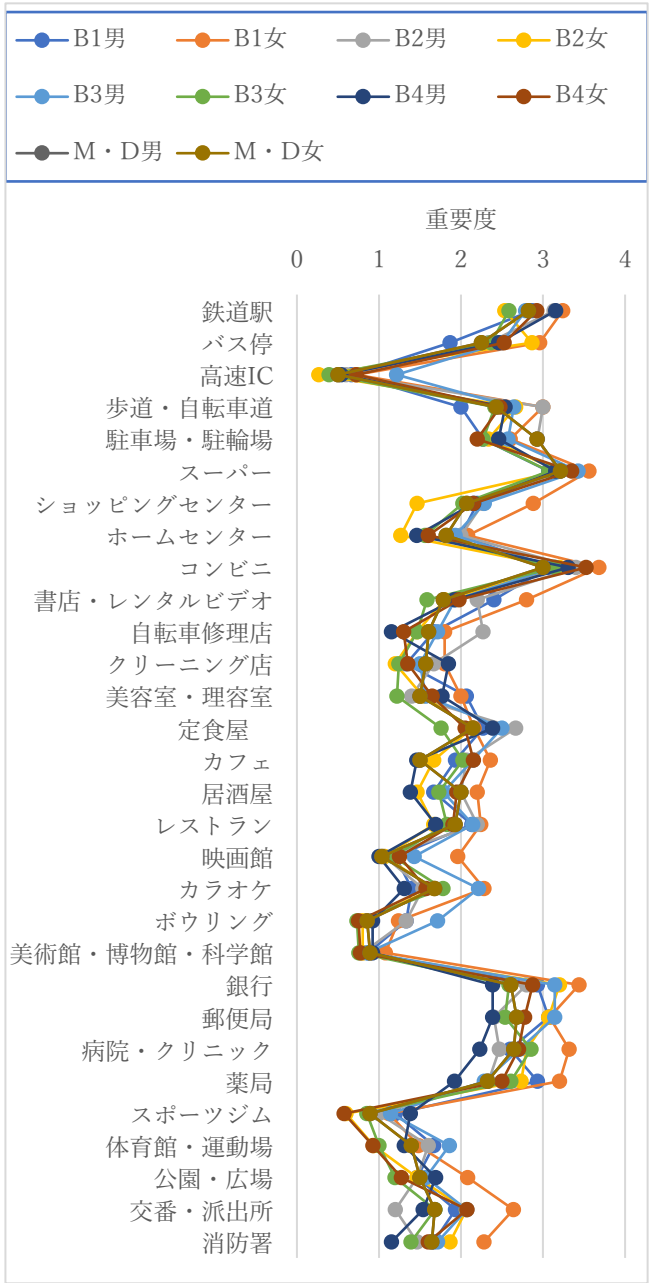


図 5 属性毎の価値観の違い

表 2 学生の価値観

項目	学部	大学院
鉄道駅	6,783	109,051
スーパー	738	566
定食屋	738	55,822
郵便局	16,789	1.37×10^{-5}

[単位：円]

学部生と大学院生の価値観を比較したところ、学部生は買物施設と金融施設に価値の重きを置いていた。それに対し、大学院生は交通施設と飲食施設に価値の重きを置いていたことが得られた。

2.3 価値観を考慮した生活環境の定量的分析

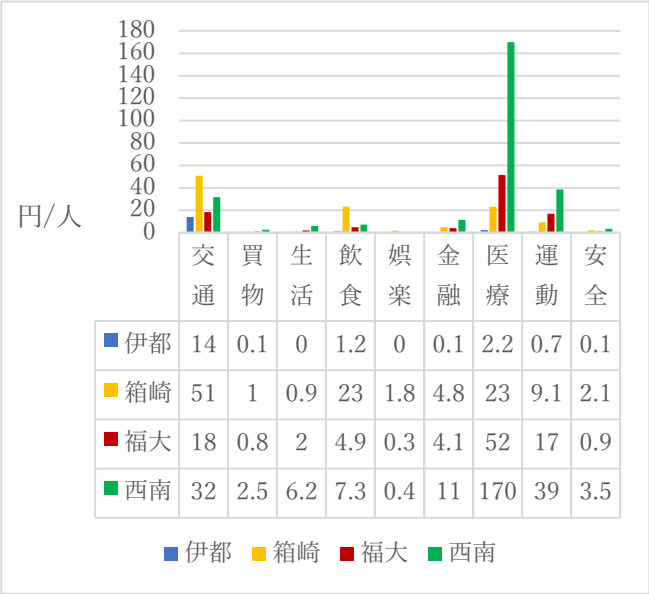


図 6 価値観を考慮した生活環境

単純な 1 人当たりの施設数での大小関係とは異なる施設項目が存在した。交通・飲食・娯楽・金融について 1 人当たりの施設数では西南学院大学が多かったが、価値観を考慮した生活環境で比較すると、箱崎が高い値を示した。これは学部生と大学院生の価値観の違いがあることと学生の構成要素が異なることに起因すると考えられる。

3. 結論

4 つのキャンパスについて生活環境を把握し、学生が生活を送るうえで、重要と考える要素について分析することができた。その上で学生の価値観を考慮した生活環境を定量的に分析することができた。

① 藤嶋晋平,柳澤聡子,山田和義,高橋信之,尾島俊雄：早稲大学大久保キャンパスとその周辺地域における学生のための空間整備に関する研究,2002

② 石丸紀興,許京松：大学移転に伴う周辺地域の変遷に関する研究,2004.1

③ 小林剛士,鵜心治：キャンパス周辺土地利用変遷と居住地満足度に関する-考察,2009.2